

平成 22 年度 第 2 回札幌市自然由来重金属検討委員会

議事要旨

- 1 日 時 平成 22 年 12 月 22 日（水）10:00～12:15
- 2 場 所 札幌市役所本庁舎 12 階 5 号会議室
- 3 出席委員
委員長 五十嵐 敏文
（北海道大学大学院工学研究科教授）
委 員 伊東 佳彦
（独立行政法人土木研究所寒地土木研究所防災地質チーム上席研究員）
委 員 遠藤 祐司
（地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所
資源環境部資源環境グループ 主査(素材資源)）
委 員 神 和夫
（北海道立衛生研究所健康科学部長）
福士明委員（北海学園大学法学部教授）は欠席
- 4 事務局出席者
札幌市環境局環境都市推進部 湯浅 正和（環境管理担当部長）
鈴木 欣哉（環境対策課長）
環境対策課
- 5 議題
（1）議題 1 自然由来重金属を含む建設発生土の移動管理について
（2）議題 2 地下水のリスク管理について
（3）議題 3 効果的なリスクコミュニケーションのあり方について
- 6 配布資料
（1）次第
（2）出席者名簿
（3）座席表
（4）資料 1 - 1 自然由来重金属を含む建設発生土の移動管理について
（5）資料 1 - 2 自然由来重金属を含む建設発生土の分析方法等の検討について
（6）資料 2 地下水のリスク管理について
（7）資料 3 効果的なリスクコミュニケーションのあり方について

7 議事概要

(1) 開会挨拶(事務局 湯浅環境管理担当部長)

(2) 議題1 自然由来重金属を含む建設発生土の移動管理について

- 資料1-1で示した将来的に必要な対応案及びそれまでの暫定措置等について、以下のとおり意見があったが、概ね原案の方針について了承が得られた。
 - ・これまでの調査データを地質、深度等について詳細に解析することで、実際の工事に活かすことができるかを検討してほしい。
 - ・移動管理方法について、いろいろなパターンを示し、その中でどのような課題があるかを整理してほしい。
- 資料1-2で示した簡易分析について以下のとおり意見があった。
 - ・簡易分析は通常スクリーニングに使用するものであるため、ふるい分けには有効である。しかしながら、簡易分析はなるべく基準超過を見落とさないようにするために、公定法では基準超過していないものも簡易分析では基準超過と判断してしまう可能性があることから、簡易分析によって基準超過とみなされる土壌は多くなってしまうことが想定され、問題を複雑にしてしまう恐れがある。
 - ・「簡易分析法」で「基準超過の土壌汚染」が発見された場合には、土壌汚染対策法第4条の「当該土地が特定有害物質によって汚染されているおそれがあるものとして環境省令で定める基準に該当すると認めるとき」に当たる可能性があると思われる。

(3) 議題2 地下水のリスク管理について

- 資料2で示した、地下水質管理方法(案)について了承が得られた。

(4) 議題3 効果的なリスクコミュニケーションのあり方について

- 資料3について以下のとおり意見があった。
 - ・公表の方法を論じる前に、市内の飲用井戸について、その存在状態の把握が優先される。むやみに公表することは避けるべきと思われる。
 - ・地下水の飲用リスクについては、札幌市は十分に対応してきていると思われるので、これまでの取り組みも踏まえた表現にしてほしい。
 - ・飲用井戸存在状況調査について、調査協力が得られやすいように調査方法を整理してほしい。
 - ・福岡県で、地下水のヒ素の基準超過についての事例があるので、参考にしてほしい。

(5) 閉会挨拶(事務局 鈴木環境対策課長)